平成２７年４月１３日発行　　１２０号

清　水　港　湾　事　務　所　広　報　紙

みなとしみず

発　行
国土交通省中部地方整備局
清　水　港　湾　事　務　所
御前崎港事務所/下田港事務所/田子の浦港事務所
静岡市清水区日の出町７番２号
TEL. ０５４-３５２-４１４６(代表)
http://www.shimizu.pa.cbr.mlit.go.jp

～CONTENTS～

・春らんまん　みんなで感じる清水港！　・平成２７年度　清水港湾事務所事業概要　・横浜国立大学の留学生が清水港を視察！
・港で働く〝女性〟にインタビュー！(第３回)　・シリーズ「エアガール　東京―下田―清水定期航空路⑤(全５回)

春らんまん　みんなで感じる清水港！

家康公四百年祭

平成 27 年 3 月 26 日(木)、県内の皆さまを対象とした清水港見学会を開催しました。

当日の、清水港は晴天に恵まれ、ご家族連れやお孫さんを連れた年配の方など、遠くは浜松や三島などから約 150 名のご参加をいただきました。

今年、没後 400 年を迎える徳川家康は、清水港と深い関わりがあります。清水港には、駿府城の修築・修理のための石材をはじめ多くの物資が、巴川河口を利用し駿府城まで運ばれていたなど、徳川家康に関わる多くの歴史があります。

現在の清水港は、日本の経済にとって重要な国際拠点港湾として位置づけられ、国際拠点港湾の中で最も面積が小さい港でありながら活力に富み、コンテナターミナルやエネルギー関連施設、チップ、穀物などのバラ貨物を扱う施設など様々な役割を持った施設が配置されています。

参加者の皆さんは、普段見られない海から見る清水港の様子を見学しながら、地域の発展と共にその姿を変えてきた歴史や徳川家康との関わりについての説明に耳を傾け、約 1 時間の港内見学を楽しんでいらっしゃいました。

≪船内案内の様子≫

≪港内視察の様子≫

≪見学時に配布した港の歴史に関する資料≫

港を勉強しませんか？

〝無料〟で港を勉強できる！

当事務所では、工事現場や清水港の見学・案内、勉強会など、いろいろな形で学習の支援を行っています。子どもや先生・学校関係だけでなく、一般の方もお気軽にご相談下さい。

港について勉強会の様子

港内見学の様子

コンテナターミナル見学の様子

現場見学会の様子

清水港ってどんなとこ？
清水港の役割や特徴を紹介した子供向け資料

清水港の歴史に関する資料
徳川家康と清水港の歴史に関する資料

～見学会についてのお問合せ～

国土交通省中部地方整備局 清水港湾事務所 企画調整課
TEL：054-352-4148 FAX：054-353-3072　　E-mail：shimizu-kikaku@pa.cbr.mlit.go.jp

平成２７年４月１３日発行　　１２０号

平成２７年度　清水港湾事務所事業概要

当事務所では、港湾整備等を通じて輸送コスト削減や大規模災害における早期復旧など信頼性の高いインフラサービスを提供し、産業の立地環境を強化することで、我が国有数のものづくり地域である静岡県において“県内立地産業の元気”並びに“日本経済の元気”を支えます。

清水港

【新興津地区国際海上コンテナターミナル整備事業】

コンテナ貨物の需要増加や世界的なコンテナ船の大型化などに対応し、産業立地環境の改善を通じて国際競争力の強化を図るため、岸壁（水深15m）、泊地（水深15m）、防波堤の整備を進めています。なお、岸壁及び泊地は平成25年5月に供用を開始しています。今年度は、新興津防波堤の延伸工事を進めます。

【港湾施設の老朽化対策】

老朽化した施設の改良設計及び改良工事を実施します。今年度は、興津地区岸壁（水深10m）、富士見地区岸壁（水深14m）の改良工事及び（水深9m）の調査・設計等を進めます。

【大規模地震・津波への対応力強化】

大規模地震発生時の津波により防波堤が倒壊し、その後の荷役活動への支障が無いように「粘り強い構造」への改良を行っています。今年度は、外港防波堤、新興津防波堤の改良工事を進めます。

田子の浦港

【中央地区国際物流ターミナル整備事業】

田子の浦港における多くの港湾施設は、老朽化が進み、船舶の大型化にも対応できておらず、他港からの陸送が発生するなど、非効率な輸送形態を強いられています。

このような背景から、船舶の大型化への対応並びに大規模地震発生時の緊急物資輸送のための岸壁（水深12m）及び航路・泊地（水深12m）の整備を進めています。

このうち、岸壁（水深12m）については、平成23年2月より供用を開始しており、今年度は航路泊地（水深12m）の水深を確保するため、港口部において航路保全対策を進めます。

御前崎港

【防波堤整備事業】

御前崎港女岩地区では、すでに国際物流ターミナルが供用しており、コンテナ船、自動車運搬船やRORO船が利用しています。

より一層の利便性や安全性確保のため、港内の静穏度を高める防波堤（東）の整備を進めています。今年度は、防波堤（東）の延伸工事を進めます。

【大規模地震・津波への対応力強化】

大規模地震発生時の津波により防波堤が倒壊し、その後の荷役活動への支障が無いように「粘り強い構造」への改良を行っています。今年度は、防波堤（西）及び防波堤（東）の改良工事を進めます。

下田港

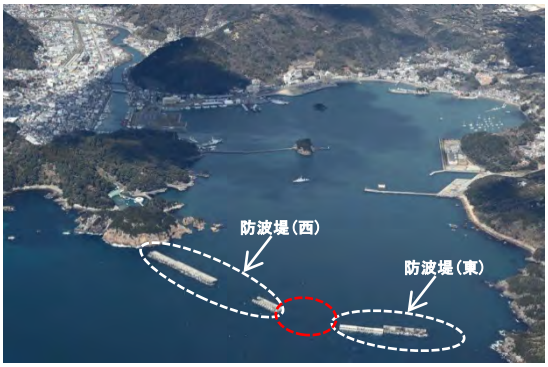
【防波堤整備事業】

下田港は、周辺海域が複雑な地形と厳しい海象条件のため、海難事故が多発する海域であり、古くから海の避難場所（避難港）として利用されています。

そのため、避難港として船舶の安全な避泊水域を確保するため、防波堤の整備を進めています。

現在、進めている防波堤整備は、避難船舶を守るためだけでなく、大規模地震による津波から背後の住民や財産を守る“津波低減効果”も期待されています。

今年度は、防波堤（西）と(東)の先端部の補強工事を進めます。



横浜国立大学の留学生が清水港を視察！

平成 27 年３月 11 日(水)、横浜国立大学(神奈川県横浜市)の統合的海洋教育・研究センターで学ぶ４カ国 11 名の留学生が清水港を船上と日本平から視察しました。

毎年、留学生の皆さんは、横浜港以外の港について学ぶことを目的に全国の港を視察しており、今年は、清水港の概況と歴史・文化を学ぶ事を目的に清水港を訪れました。

船内では、事務所職員より、静岡県と清水港の概況、清水港の果たす役割や港内立地企業の状況、コンテナターミナルの整備状況などについて、また、日本での先進的な港湾景観形成の取り組みである「清水港・みなと色彩計画」について説明を行いました。

留学生の皆さんは、富士山と清水港の美しい眺望を目の当たりにして大変感激するとともに、富士山と調和した港の景観形成の取り組みを学ぶことが出来、とても満足していました。

港で働く〝女性〟にインタビュー！(第３回)

㈱エスパルスドリームフェリー　鈴木有香里さんにインタビュー！

<インタビュアー：西村>

第３回目は、㈱エスパルスドリームフェリー鈴木有香里さんにインタビューをしました。

鈴木さんは、静岡県立焼津水産高等学校、清水海上技術短期大学出身で、ダイビングや実習を通じてさらに海が好きになり、大型船の免許を取得されました。卒業後、大阪に就職をしましたが、「地元で働きたい」「遊覧船などでお客様ともっと関わり、船長として働きたい」という思いで、今の仕事に就きました。

主に、ベイプロムナードと水上バスの船長や、チケット売り場の受付の仕事を担当しています。船を運転する際には、お客様の安全に関わる天気や風向きに気を付け、船がなるべく揺れない様に心掛けているそうです。

船長をしていて、地元や地方のお客様と近くで触れ合えることや、「ありがとう」「とてもよかったよ」「がんばってね」などと言われることにとてもやりがいを感じるそうです。

海の仕事がしたい女性や広報誌の読者へひとこと！

「今は、女性の船長もたくさんいるので、女性だからと諦めないで、海が好きで、海と関わる仕事がしたいと思ったらチャレンジしてほしいです。また、世界文化遺産に登録された富士山や三保松原を陸からではなく、海から見ると違った景色を見ることが出来るので、是非船に乗りにきてほしいです。」とおっしゃっていました。

シリーズ「エア・ガール　東京ー下田ー清水定期航空路⑤（全５回）

※　このシリーズは県内で知る人が少ない「東京-下田-清水定期航空路」について取材をしてこられた山口氏の寄稿によるもので、今回は連載最終回です。

前回、御紹介した昭和６年３月２９日の日本最初の「エア・ガール」搭乗の試験飛行は、無事に終了し、４月１日の定期便開設に繋がりました。実はこの試験飛行には幾つか「謎」があります。今回は、そのうちの２点について、触れてみたいと思います。

１点目は、清水港を飛び立った「小泉逓信大臣一行の帰路」についてです。実は、一行はそのまま東京まで搭乗せずに、沼津で降りています。その後の交通手段が新聞紙面によって、「自動車で帰京」「鉄道にて帰京」と記述が曖昧になっています。同乗した東京日日新聞の岩崎記者の手記によると、「自動車で三島から箱根を越えて帰京したとなっていました。」ただ、沼津に着水した部分に関しては、予定外の行動だったようです。沼津に着水した理由について特に手記では触れていませんが、エンジンの爆音が響き渡る機内の環境に令嬢が耐えられなくなったのではないでしょうか。

清水を午後１時に離水した飛行機は、１５分後沼津千本松原に着水します。この時、何も知らされていない沿岸の人々は、事故を起こして不時着したものと勘違いし、老若男女が駆け付けたそうです。当時、付近に居住していた森岡陸軍大将の令息も駆け付け、一行の上陸を助けていると、ふいに逓信大臣が現れたので、急いで父を呼びに行き、急な面会となりました。事故と思っていた森岡大将は「とんだ事でしたなあ」と告げると、小泉大臣「いろいろの御尽力、恐縮に存じます」ただ、故障でもないとわかって２人とも「わっは･･･」令嬢も笑顔で「本当に恐縮だったわ。しかも平和な村人に、とんだショックを与えて気の毒でしたわねー」集まった人々も新聞で知っていたモダン天女のエアガールと大臣令嬢が不意に空から降りて来たので大喜びだったようです。

２点目ですが、３月２９日の試験飛行前の写真に「女流飛行士　北村兼子」という文字が記載されたものがあります。「日本最初のエア・ガールが女流飛行士の操縦で清水へ」というものです。おそらく東京日日岩崎記者が女性であったため、当時著名な女性ジャーナリスト北村兼子と勘違いしたのではないか、と思われます。

北村兼子は、大阪毎日新聞では記者としての活動以外に、小説やエッセイなども執筆。退社後も、婦人参政権や女性の労働環境改善などで世界各地に赴き国際会議や大会に参加していました。飛行機にも興味を持ち、昭和５年１２月、日本飛行学校に入学しました。日本飛行学校は、東京航空輸送社社長相羽氏が経営していました。彼女は昭和６年７月６日にパイロット免許を取得しますが、１週間後、盲腸炎により入院。術後の経過が思わしくなく、腹膜炎を併発し、同年７月２６日永眠されました。

３月２９日の時点では、彼女も日本飛行学校の生徒でしたが、まだ、免許証未取得の状態で操縦桿を握らせるとは考えにくく、練習用ではない愛知 AB-1 というプロトタイプの機体の操縦は不可能と思われます。

ただ、現時点において、同乗した東京日日新聞の女性記者、岩崎さんについての確認は出来ていません。写真の解像度も今一つ鮮明ではありませんので、何らかの事情で北村兼子さんが岩崎記者として試験飛行に搭乗していたという可能性は否定できません。その部分に関しては、引き続き調査したいと思っています。

東京～下田港～清水港定期航空便は、昭和１３年戦争拡大による民間航空会社の統合により姿を消す事になりますが、「エア・ガール」は、その１年前の昭和１２年４月、国策会社「日本航空輸送」によって再び採用募集され、現在では旅客機には無くてはならない存在になりました。

山口博史（やまぐちひろふみ）昭和 43 年、静岡市清水区生まれ。フォトグラファー、テレビ撮影技術スタッフ。下田市取材中に「東京ー下田ー清水」定期航空路に関わった旅館に出会い、10 年以上各地で調査している。

海とみなとの相談窓口

携帯・PHS OK　全国共通フリーダイヤル

おーいに　よくなれ　みなと

0120-497-370

受付時間：9時30分～12時、13時～17時（土・日、祝祭日は除く）

☆携帯電話・PHSからもご利用できます☆

・海やみなとの利用に関すること
・総合的な学習時間に関すること
・みなとの構想や計画に関すること
・海洋土木技術に関すること
・みなとの防災に関すること
その他、海とみなとに関することは何でもお問い合わせください

■本紙に関するお問い合わせ先■

清水港湾事務所　企画調整課

赤松・西村　TEL054-352-4148

ご意見ご感想をお寄せ下さい。

shimizukouwan@pa.cbr.mlit.go.jp